



在京古高同窓会会報 第45号

〒352-0031 埼玉県新座市西堀2-17-37 在京古高同窓会事務局
(042) 494-1598 FAX (042) 494-1598
URL http://www1.ttcn.ne.jp/~furuko
Email zaikyo-furuko@mx5.ttcn.ne.jp
発行責任: 曾根 研一 編集長: 亀井 明 印刷: (株) ケーヨー

ご挨拶

会長 高橋 俊裕



年初来乱調の甚だしい天候の中、皆様におかれましては体調の維持などご苦心多かつたことと推察されますが、まずは無難にこのシーズンを乗り切られたこととお慶び申し上げます。

政治や経済までが天候に同調して先の読めない状況になっていることが残念でなりません。この様な社会で、「夢」を持つことができると、これからの世代の人達の苦勞がしのべれます。

最もこの不順な天候のお陰で2回も花見を満喫できました。ゴールデンウィークの郷里は長期間の好天に恵まれ、あちこちで桜が開。遅い春を渋滞の中でふる里へたどりついた人々を楽しませていました。最も、山菜は例年に無く種類が少なくて淋しかったのです。

さて、恒例の4校合同新年会は古工の当番で1月30日開催されました。ビデオアルバム「時をかける少年・少女」と題してかつての古

川の街並、高校生の姿など懐かしい映像に母校や古川をしばし偲んだことでした。例年のことではあります。幹事の皆様に厚く御礼申し上げます。

いささか気になるのは参加者が若手とはいえ減少傾向にあることです。私達役員も色々対策を考えて参りますが、ご意見・ご要望ありましたら事務局へご一報願いたく存じます。

また、母校の状況については佐々城先生が詳しく触れられると思いますが、本年は東北大学への合格者が12名(過卒含む)に達したとのことです。仙北の雄として母校が復活しつつあると思いを表したいと思えます。

また一方では、春田副会長の熱意が曾根副会長のご尽力によって、古高柔道部応援歌を復元しました。是非正調柔道部応援歌をお聞き下さい。

去る4月18日大崎市長選が実施され、伊藤康志氏が実績を買われ2期目の当選を果しました。今回の選挙では、地域のエゴとつまらない学校間の反目、ふさわしくない候補者を応援している同窓生が見受けられたことはいささか残念なことでした。

さて、ご好評いただきました「ふるさと探訪ツアー」は、本年は見送ることとしました。企画内容を充実検討する為であります。そ

在京同窓会メモ

- ・会計年度は4-3月、年会費は一口2,000円です。
・会の健全運営のため、振替用紙が同封された方には、納入をお願い致します。
・次回会報第46号は2011年1月1日発行予定、原稿は常時受付。

ご挨拶

古川高等学校長 佐々城 洋



の替りとして、別掲のご案内の通り、来る10月23日(土)「江戸・東京を楽しむ会2010」を催すことになりました。奮ってご参加下さい。また本年8月7日(土)は本都同窓会が100周年を記念して開催されます。在京の皆様もご都合が付けば積極的にご参加されますようご案内いたします。

在京同窓会の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より母校の教育振興のためご支援いただいておりますことに深く感謝申し上げます。さて、3月1日の卒業式には、高橋会長様から学窓を巣立つ後輩に東京賞賞状と饒の言葉を頂戴いたしました。心より御礼申し上げます。在校中様々な成果を上げた今年卒業生ですが、大学進学面でも

国公立大学合格者が東北大8名を含む80名を数え、過去最高の実績を残してくれました。3人に1人の国公立大現役合格はひとつの目標でもありましたので、大変うれしく思っております。

また、昨年最終的に1名の定員割れとなった高校入試については、今年度からの全県一学区制の導入もあり受験生の動向が懸念されましたが、推薦入試1・51倍、一般入試1・19倍と、まずまずの志願状況の下で入学者選抜を実施することができました。

新年度に入り、4月28日に開催された築館高校との定期戦では昨年に続き勝利を収めました。全くの劣勢をはね返し、最終種目で勝敗が決するという、正に劇的な総合優勝でした。古高生の本領、底力を感じさせる見事な勝利であり、生徒たちは大きな自信と勇気をつかんでくれたことと思います。

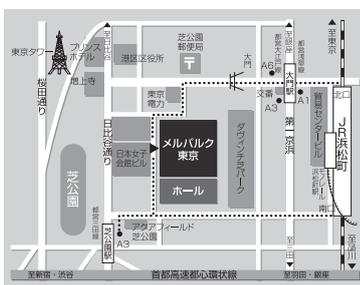
学校の施設・設備面では、昭和30年代後半に建設され老朽化した教室棟について、改築の方向で計画が進められることになりました。学校生活の中心となる施設です。この事業を通じて教育環境の整備・充実が十分に図られるよう努力してまいります。

男女共学となつて5年が経過し、順調に共学校としての礎を築くことができたと考えておりますが、これからもよき伝統を継承しつつ、時代に即した学校づくり、大崎の拠点校としての人材育成に全力を傾注する所存でございます。今後とも変わらぬご支援をお願いいたしますとともに、在京古高同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。ご挨拶いたします。

平成22年度 在京古高同窓会定時総会・懇親会

【日時】平成22年6月26日(土) 11:30~15:00
【会場】メルパルク東京(右図参照)
【会費】8,000円

【演奏とお話】工藤 春彦氏(ヴァイオリン)
~S47古高卒・東京放送管弦楽団コンサートマスター~
(演奏曲)
ドヴォルザーク: ユーモレスク
フォーレ: 夢のあとに
マスネ: タイスの瞑想曲
その他、日本の歌など



メルパルク東京 〒105-8582 東京都港区芝公園2-5-20 TEL 03-3433-7211

【交通案内】JR・モノレール「浜松町駅」北口 徒歩8分/都営地下鉄三田線「芝公園駅」A3出口 徒歩2分/都営地下鉄浅草線・大江戸線「大門駅」A3・A6出口 徒歩4分

【演奏者紹介】

工藤春彦氏 プロフィール

中新田出身。昭和47年古高卒。在学中は吹奏楽部でホルンを担当。国立音楽大学にホルン専攻で入学後、ヴァイオリン専攻に転科。卒業後、フリーのヴァイオリニストとして活躍後、1997年より東京放送管弦楽団のコンサートマスターに就任。NHKの「歌謡コンサート」「紅白歌合戦」「BSにっぽんの歌」等の音楽番組に出演している。



お知らせ

同窓会発足

百周年にあたって

古川高校同窓会

会長 渡邊 義之



天候不順な日が続き、ようやくここ大崎の地にも花爛漫の春が来ましたが、在京同窓会の皆様方はお元気で過ごされたことと、心からお慶びを申し上げます。

また、常日頃、母校発展の為、多大のご支援を賜っておりますこと、心から感謝申し上げます次第であります。

さて、本年は同窓会が発足してから、丁度100周年という節目の年を迎えることになりました。これ偏に多くの同窓生諸兄のご尽力の賜物であり、これまでのご労苦に対し、衷心より謝意を申し上げます。現同窓会役員一同、これまでの先人のご功績を礎として、素晴らしい会にすべく全力を傾注する所存であります。

今年8月の総会は発足100周年の記念すべき会になるよう、総会は冠総会とし、記念講演は歌手でもあり、多方面にわたって活躍中の佐藤宗幸氏(19回)に依頼し、過日快諾を得たところであります。



ます。また記念事業の一つとして同窓会活動の源泉である同窓会名簿の発刊を予定しているところでございます。

母校の現況ですが、今春の卒業生は、目標であった国公立大、現役80名合格を見事に達成し、東北大も現役8名、過卒4名の合計12名という二桁になり、私共も大変喜んでおります。さらに側聞致しますと新校舎建設の為の基本設計が本年度なされること、大変嬉しく思っております。

次に私共の最大の課題でありました同窓会の会費、納入も順調にしておりますこと、会員の皆様方のご協力に対し、大変感謝しているところでございます。世の中大変不確定なところがあります。同窓生の母校愛は本物であると確信しているところであります。

終わりに在京同窓会が益々ご発展し、在京の皆様方のご健勝とご活躍を心から祈念し、あいさつと致します。

近況報告

事務局長 大山 義男



在京同窓会会員の皆様、いつもお世話になっております。昨年度は在京同窓会総会をはじめ、「ふるさと探訪ツアー2009」、旧

古川市内四校関東合同同窓会と大変お世話になりました。また、去る3月1日に行われました卒業式では、高橋俊裕在京同窓会会長にご臨席賜り、誠にありがとうございました。東京栄雪賞授与に続きご祝辞の中では、「人間至る処青山有り」の言葉を引き合いに、社会に出てから大いに羽ばたいて欲しいという激励のメッセージと、在校生への期待の言葉を頂きました。卒業生並びに在校生にとつては、これからの人生への大きな指針になったことと思われます。

さて、本年度も新たに240名(内女子90名)の新入生を迎え、新年度がスタートしました。恒例の第51回紫藤定期戦(対築高戦)は4月28日に行われ、生憎の雨天ではありましたが、6勝5敗で古高が勝利しました(通算成績35勝13敗3分け)。この定期戦を迎えるにあたって、新入生は入学当初から厳しい応援練習に耐え、この1ヶ月で校歌、凱歌、囃南歌、応援歌等を覚え、真の古高生となったことと思われます。



対築館高校定期戦 開会式



対築館高校定期戦 選手宣誓

大学80名という過去最高の偉業を達成し、ついに3人に1人は国公立への進学を果たせる名実共に進学校としての地位を築くことができました。今後ますますの期待を込めて進学指導に力を入れて参りたいと思っております。詳しくは別紙進路一覧表をご参照ください。

次に、昨年度よりお願いしておりました会費納入につきましても、今年度も多くのご協力を頂きました。今年度は昨年度の1600名を既に超え、1677名の会費納入を頂きました。これもひとえに同窓会員皆様の母校に対する熱い思いと、在校生への応援の気持ちの現れだと思われます。改めて感謝申し上げます。

更に、同窓会会員の皆様には日頃から多くのご協力とご支援を頂いております。高4回生の同期会である「燦々会」様からは、喜寿を記念して桜の植樹の申し出がありました。既に本校の校庭に、昨春秋に植樹を終え、その苗木もすっかりと根をおろしており、枝のつばいに花を咲かせてくれる日が待ち遠しく感じられます。喜寿を記念してということで、来る7月7日午後2時から本校にて授与式を予定しております。

話は変わりますが、今年3月の卒業生はその実力を遺憾なく発揮してくれました。本年度は国公立

最後に本年度の本部同窓会総会についてですが、本年度は同窓会発足100周年を迎える記念すべき年となります。現在は8月7日(土)に大崎市古川の「芙蓉閣」で開催される100周年記念式典に向けて鋭意準備中でございます。本年度は記念講師としてさとう宗幸氏(昭42卒・高19)を予定しておりますので、どうぞ奮ってご参加ください。本年度は高16、高21、高26、高31、高36、高41回生が年度当番幹事になりますので、是非本部同窓会を利用し、同期の級友と友誼を温めて頂きたいと存じます。

東京蛍雪賞

3月1日に行われた古高卒業式に先立ち、生徒会活動に優れた業績を上げた卒業生2名(生徒会長金子太一君・野球部主将・田尻中出身、応援団長今野大義君・ハンドボール部・鹿島台中出身)に、本会の高橋会長より「東京蛍雪賞」の賞状と記念品が贈られました。写真。



生徒会長を通して

生徒会長 金子 太一

このたび、東京蛍雪賞という素晴らしい賞をいただき本当にありがとうございます。高校生活は私の長い人生の中でたったの3年間でありましたが、とても自身の濃い充実した3年間でした。特に生徒会長であった1年間は私にとって大きな成長となったのだと思います。

会長に就任当初は、先代の会長

達の素晴らしいに圧倒され、私もそのようにならなくてはいけない、と焦りと不安を抱えて過ごしていた毎日でした。

しかし、ある人の「自分は自分でいいんだよ」と言う一言で先輩は先輩であり、私は違っているのだと気づき、それからは自分自身で納得のできる物事を考えて実行することができました。大人になっていく中で生徒会長となったことで私には大きな自信といったものが生まれました。

私は古高の長き伝統を引き継ぎながら新たな古高を創り上げてきました。その歴史の長い伝統校の生徒会長であったことを大変誇りに思っています。これからも、先輩達が築き上げてきた古高精神を後輩達に引き継いでいってほしい、新たな古高を創ってほしいと思います。

今回頂いた「東京蛍雪賞」に恥じぬように、これからの人生をより精進していきたいと思えます。本当にありがとうございます。



左より、金子太一君、高橋会長、今野大義君

応援団長として

応援団長 今野 大義

この度、東京蛍雪賞という素晴らしい賞を頂き、本当にありがとうございます。

卒業を迎えてこの3年間を振り返ってみると、本当に自身の濃い3年間だったと実感します。文武両道、質実剛健を掲げる古川高校に入学し、勉強、部活、交友関係と私を成長させてくれるものを数多く経験することができました。

応援団長の経験はその中でも最も私を成長させてくれました。それまで大勢の人の先頭に立つて行動をとることなど無かった私にとって、それはとても大きく大きな訓練でした。

その重圧は日に日に増す一方で、確実に私を追い詰めていきました。しかし、いつからかそれは重圧ではなく、喜びに変わっていったのです。

それは誰しもができない応援団長としての経験を通して、私自身応援団長としてだけでなく、一人の人間として成長することができ、自分に自信を持つことができました。応援団長の経験がなかったら、今年の1年、自分との戦いに勝てないと思います。

応援団長として過ごした日々は私にとって生涯決して忘れることのない財産であり、誇りでもあります。これはこの先私が大学生、社会人として大人になっていく上で私を支え、更に成長させてくれるものだと思います。

これからも努力を惜しまず、この大変名誉な賞に恥じぬような活躍をしていきたいと思えます。本当にありがとうございます。



授与式の後、祝辞を述べる高橋会長



男子校時代には想像できなかった華やかな卒業式

平成21年度進路状況 (現役/国公立大学進学者数のみ)

国立大 60名

大学	学部	男	女	計
北海道		1		1
弘前	教育		1	1
秋田		3		3
岩手	教育			5
	工			6
	農			3
	計	8	6	14
東北	文			1
	経済			1
	医			1
	工			3

大学	学部	男	女	計
東北	農			2
	計	5	3	8
宮城	学校教育			1
	障害児教育			4
	計	4	1	5
山形	人文			1
	教育			3
	理			4
	医(看護)			1
	工			3
	計	8	4	12

公立大 20名

大学	学部	男	女	計
福島	教育		2	2
茨城		1	1	2
宇都宮		2	1	3
群馬		2		2
千葉		2		2
東京海洋		1		1
東京学芸			1	1
電気通信		1		1
新潟		2		2
合計		40	20	60

大学	男	女	計
青森公立	1		1
秋田県立	2		2
岩手県立	1	1	2
宮城	1	8	9
福島県立医科		1	1
会津	1		1
前橋工科		1	1
高崎経済	1		1
埼玉県立		1	1
横浜市立	1		1
合計	8	12	20

第十七回 旧古川市内四校新年の集い

往年の母校のビデオ上映に、青春時代をなつかしむ

恒例の第17回四校関東同窓会「新年の集い」が、古川工業高校の幹事で、1月30日(土)、上野精養軒で盛大かつ和やかに開催されました。全体出席者は240余名(来賓を含む)、本会員は昨年より若干少ない71名でした。

第1部は古高・古川黎明高の司会により、11時に開会。まず四校を代表して古川工業高校関東同窓会の草刈会長が挨拶、引き続き、各校長がそれぞれの近況を交えて挨拶を行った。今年度着任された本学(創立112年)・佐々城校長は男女共学が順調に成果を挙げていることを述べ、運動部(ソフトボール、クロスカントリ、ボーリング等)の活躍や多彩な卒業生の進路について紹介。古川黎明高(創立89年、氏家校長)は男女共学・中高共学5年目、スキーや薙刀等の活動も盛んと紹介。古川工業高(創立75年、森校長)は、経済不況にも関わらず、就職内定は90%超とのこと。古川学園高(創立55年、泉澤理事長、大河原校長)は春高バレー12年連続準優勝、中学開校

などを報告。

次に各校の本部同窓会会長、役員挨拶。本学渡邊同窓会長は、「新年の集い」は、大崎の雰囲気と共有する貴重な機会、本部同窓会は100周年を迎えるが、全県一学区になることを踏まえ、活動を盛んにしたい旨、挨拶を行った。

来賓紹介では伊藤大崎市長が挨拶。今年の正月は寒い雪景色となったが、合併4年目で「宝の都(くに)大崎」、「ずうっとおおさき」、いつかは「おおさき」のスローガンを掲げ、20万人都市(現14万人)を目指し頑張っていると強調。経済不況の中、幸い進出企業の事業計画も比較的順調であり、また産業振興とともに「環境先進市」にも力を入れているとのこと。最後に「ふるさと納税」の誘いと「カンガルーの出没」の話題で笑いを誘って挨拶を終えた。

今年、古川工業高校関東同窓会の制作・撮影でビデオアルバム「時をかける少年・少女」古川編Ⅱ写真Ⅱが上映され、かつての古い街並み、通学路とともに、四校の様子(創立期、30〜40年、50〜60年、70〜80年、90〜2000年と年代ごと)に写真と歌で紹介された。忘れかけていた往事の校舎、恩師、そしてクラブ活動や応援の情景を

見て、各自の青春時代を懐かしく思い起こしている様子であった。第II部は予定より15分ほど遅れて13時に開催。古川学園と古川工業が司会を務めた。まず、四校関東同窓会を代表して、古川黎明高校同窓会の伊藤関東支部長が、諏訪中央病院の鎌田実病院長の「がんばらない」を引用して挨拶。高橋本学在京同窓会長が乾杯の音頭をとり、ビデオ上映が懐かしかったこと、昔は貧しかったが礼節と進取の気風があったこと、その時代を知る同窓会の皆さんが昨今の混迷の時代を克服するための一助になりました、と呼び掛けた。

その後、民謡歌手の渡辺星幸さん(古川黎明高S39卒)の「さんさ時雨」を口火に懇親会が始まり、和やかな雰囲気、盛り沢山の料理とアルコールで互いの交流を深めた。懇親会の中盤には、大崎市観光交流課の松ヶ根課長(古高S51卒)より大崎市の各地区の観光案内、お米の抽選が会場を盛り上げていた。15時過ぎ、次回幹事の古川学園高校関東同窓会村田支部長より閉会の挨拶があり、「四つ葉の仲間たち」のメロディが流れる中、再会を約して散会した。次回は来年1月29日(土)、同じ上野精養軒で開催の予定。

(昭46卒 笠間邦彦)



新制古川高校発足と校門 (昭和23年)



第一回築館高校対古川高校定期戦 (昭和31年)



旧校舎 (昭和36年)



新校舎第5期完成 (昭和39年)



服装自由化元年 (昭和45年)

<第17回四校合同新年会 古高出席者名簿 >

[四校来賓] (敬称略) 伊藤 康志 (大崎市長) 松ヶ根典雄 (大崎市役所) 伊藤 長市 (東京古川会会長) 熊谷 守広 (伊藤衆院議員秘書) [古高来賓] (敬称略) 佐々城 洋 (学校長 仙台市出身) 渡邊 義之 (同窓会会長 S34卒 東大崎出身) 高橋 亨 (同窓会副会長 S23卒 古川出身) 長井 弘策 (同窓会副会長 S31卒 古川出身) 塩野 隆 (同窓会事務局 S48卒 涌谷出身) 遊佐 誠一 (関西雪会会長 S42卒 真山出身)

[会員72名] (カッコ内は出身地)

- 昭20 安部善次郎(古川) 昭28 早坂 明久(小野田) 昭30 岸 康男(鳴子) 昭30 横山 武(松山) 昭34 宍戸 志智(敷玉) 昭41 横山 寛孝(尾尻) 高橋 昭典(古川) 昭28 渡邊 道雄(鹿島台) 昭30 佐々木 英三(志田) 昭30 和田 勝義(田尻) 昭35 岩崎 光任(宮沢) 昭41 猪俣 謙二(宮崎) 前田浩五朗(古川) 昭29 菊地 務(色麻) 佐々木 豊(古川) 渡辺 俊次(古川) 昭35 岩崎 俊次(古川) 昭45 猪俣 佐々木 質(尾尻) 松本 慶蔵(松山) 昭29 佐藤 郁郎(古川) 佐藤 忠良(三本木) 昭36 菅野 隆行(古川) 昭36 菅野 隆行(古川) 佐々木 裕祥(富永) 昭24 門脇 健(東大崎) 佐藤 興市(松山) 佐藤 輝久(荒雄) 昭37 千坂 孝夫(荒雄) 昭37 千坂 孝夫(荒雄) 佐藤 実(高清水) 昭26 角田 啓輔(古川) 高橋 洵(中新田) 高橋 順悦(不動堂) 昭38 佐々木 恭次(古川) 昭38 佐々木 恭次(古川) 藤井 茂樹(真山) 昭26 谷地 森 祝(古川) 早坂 清吉(三本木) 早坂 研一(西大崎) 昭39 石堂 達夫(古川) 昭39 石堂 達夫(古川) 笠間 邦彦(涌谷) 昭27 氏家 明朗(岩出山) 八尋 恭平(宮崎) 塚田 廣(小野田) 昭39 上野 正司(鳴谷) 昭48 大場 康也(宮崎) 佐藤 清勝(中新田) 昭30 相原 相色(麻) 塚田 容三(中新田) 原 清三(古川) 昭39 上野 正司(鳴谷) 昭51 斎藤 信也(岩出山) 中森 高(岩出山) 尾崎 光彦(田尻) 野田 武(長岡) 昭41 菊地 務(古川) 春田 紘輔(古川) 門脇 喜代志(東大崎) 堀越 五郎(在仙) 昭41 菊地 務(古川) 昭41 菊地 務(古川) 昭41 菊地 務(古川) 昭28 中川 裕雄(志田) 門脇 敏明(東大崎) 三塚 正志(高清水) 高橋 俊裕(富永) 昭55 大場 充(中新田)

佐藤 啓三 (S40年卒 中新田) 中小企業診断士 ISO (品質・環境) 主任審査員 エネルギー管理士 東京都温室効果ガス検証主任者 携帯 090-1438-9132 FAX 045-953-3894 E-mail:fzn04730@nifty.com 〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19

貸ビル、貸マンション業 株式会社 佐々木商事 代表取締役 株式会社 アクアベンドジャパン 代表取締役副社長 佐々木 光一路 (昭和33年卒) 〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル -0035 第一京浜国道沿い京急蒲田駅前 電話 (3739) 2468 FAX (3732) 7700 HOT Line 090-3202-6393

会員による自由投稿

「古高柔道部の歌」

復活の報告

昭27年卒 春田 紘輔

昭和20年敗戦とともに古中・古高では歌われることのなかった幻の名歌「春繚乱の花の雲」に始まる柔道部の歌が希有な縁で復活いたしました。その劇的な経過を報告させていただきます。

かつて古中柔道部は、昭和17年県大会で優勝するという輝く歴史を有する県下の名門校であった。昭和18年卒の玉水実先輩(8段)は、東北代表として全日本柔道選手権大会で活躍するなど、幾多の名選手を輩出した。しかし、敗戦によって武道は、軍人育成につながるとして学校教育から禁止されて、私が古中に入学した昭和21年には柔道部は存在しなかった。

そして、柔道の理念とする「精力善用・自他共栄」こそが、世界人類共存の理想であることが理解されるまで6年という時間をかけて昭和26年復活が認められた。しかし、そのとき私はすでに高校3年となっており、道場はなく、当然柔道部の歌も忘れられてゼロからの出発であった。新しい部を立ち上げることが精一杯であり、幻の歌があったことすら忘れてしまっていた。その機会は、全く偶然突然やって来た。それは平成20年11月5日である。在京同窓会企画の

「ふるさと探訪ツアー」のバスの中で、私がこれも偶然持ってきた古高応援歌集の中に柔道部の歌が載っていた。私が入学した昭和21年は、未だ古中柔道部を経験した先輩がいて、この人達からかすかに教えられた記憶が甦ったのである。私は、どうせ私以外誰も知っているはずがないから、適当に歌っておけという気持ちで御披露したところ、このツアーの幹事の佐々木恭次氏が強い関心を示してくれた。彼の兄・升一郎氏は、私と一緒に柔道部復活時に苦勞を共にした仲である。多分そういうこともあって、第2回「ふるさとツアー」の案内書にこの歌詞を掲載してくれたのである。そして、いよいよその時を迎えたのが、このツアーの夜の懇親会で是非歌えということになり、私と同期の伊藤祐造氏(中新田)が歌いました。そして、これは是非復活すべきであるという声になり、同じく27年卒の鈴木芳郎氏(古川)が在京四校会の「四つ葉の仲間たち」の作曲者でもあることから、鈴木氏に依頼して楽譜にしようということになりました。

しかし、それには正調で歌える自信はなく誰が音声にするかという問題が残りました。それを解決したのが平成21年11月25日、古高27年卒の在京忘年会でした。伊藤祐造氏が全員に歌詞を配り歌おうということになり、なんとか本当らしく歌いましたが、氏家明朗氏が、俺は兄貴に仕込まれたので自信があると云って独唱したところ、よしそれでゆ

こうということになり、鈴木芳郎氏にテープを送った。これを受けた鈴木氏は、苦心して楽譜に仕上げ、伊藤氏経由春田に送られて来たのが12月25日であった。

春田はただちに曾根研一氏に相談した。曾根氏は古高30年卒で在京同窓会副会長であります。そして東京混声合唱団の理事(事務局長)の要職にあり、日本音楽界の名士であります。曾根氏はこれを受けて合唱団の男声歌手3名を選んで1月16日、CDに採声した。

ここに古高柔道部の歌が復活したのであります。しかも、日本最高の東京混声合唱団によって記録されたということは素晴らしい幸であると思います。歌は格調高く、柔道の心をしっかりと伝えております。これは間違いなく名歌、名曲であると確信しております。

最後になりましたが、この歌の復活に御協力いただきました多くの皆様に心から感謝申し上げますとともに、古高柔道部のさらなる活躍と発展を祈ります。

柔道部の歌

一、春繚乱の花の雲

散りて吹雪と紛う時

花の香遠く一筋に

劉備の訓え身にしみて

柔の道に勇み行く

白衣の健児意気高し

二、夏大崎の野に立ちて

万象炎と燃ゆる時

天駆けり行く大鵬の

万里の波濤を乗り越えて

柔の道に勇み行く

白衣の健児意気高し

三期会について

昭26年卒 谷地森 税

去る4月26日(月)、小石川後楽園内涵徳亭において、何十回目かの昭和26年古川高等学校卒業、関東地区在住者の同期会がにぎにぎしく開催され、制限時間の午後4時迄歓談し、最後は校歌の合唱でお開きとなった。



当会は、平成9年迄銀座に会場を求め、夜間に開催されていたが、次第に年齢を重ねると共に昼間の開催を求める声に押され、平成10年からは昼間に切り替えて現在に至り、会員も当初は70名以上であったが、現在は35名と半減している。昭和26年卒生も来年は60周年を迎えるので、記念行事として全国に散らばっている同期生に声をかけ、松島で開催しようではないかとの企画が現在進行中である。

一方、一区切りつくので以後の開催は、各地区(古川・仙台・関東)の任意とする意向のようである。しかし、我々関東地区三期会は、佐藤進会長を中心にまだまだ元気なパワーの持ち主が多く、他地区とは一線を画して永く続けようではないかと云うことで意見が一致した。

ちなみに、当公園はご存知のとおり、水戸家の上屋敷として二代藩主光圀公の代に完成した池を中心とする回遊式築山泉水庭で、都心にありながら、日中でも静かなうえ、庭園の散策を楽しんだ後、涵徳亭で美味な料理を食しながら歓談するという段取りは、何回同じ会場を使っても飽きが来ないうえ、交通至便であることに会員から喜ばれている。

内科・小児科
長井内科
 院長 医学博士
長井弘策
 [昭和31年卒(高8回)
 古川高校同窓会副会長]
 〒989-6154
 大崎市古川三日町1-3-25
 TEL 0229 (91) 1020



大崎市に日本一おいしい米のモニュメント

昭38年卒 宮本 信夫 (造形美術家)

38年度名門美術部六戸章画伯の門下生となり、才能は努力して作るもの、また芸術は行為の持続であり、新しく創造する呪術的世界であること、そんな世界を「消す」とは描くことなり」の単純で無謀ともいえる強烈な言葉で指導した我が母校の恩師に敬意を表します。

大学卒業後先生から、母校に戻り教鞭をとるようにと進められましたが、可能性を追求することを決意し、東京赤羽のミッシヨンスクールにアトリエと仕事場を置くことにしました。そこは元赤羽工兵隊の兵舎が立ち並ぶ静かな丘陵地で、武蔵野の最南端に位置し、文化史跡の由緒ある自然環境豊かな恰好の場所でした。

ところが東北新幹線が学校敷地中央を通過することになり、校舎を破壊し、新設することが決定し、故郷の発展を思慮すると、反対運動には板挟みで苦悩の日々でした。結果3年の歳月で工事を決行。

子供達はプレハブ校舎等で、泥沼の騒音が響き渡る工事現場で沢山の犠牲を払い、我慢我慢の学舎生活でした。

自然豊かな環境が5年の年月でコンクリートの山と「化」し、子供達の心まで荒々しく、窓ガラスを割ったり、学内での怪我等落ち着かない行動が多くなりました。

土を失ったコンクリート空間で何ができるか。簡単にできることからやってみよう、プランター

で美しい環境空間を作ることを思い、埼玉の専門の工場に託を話し800個を準備していただき、球根などは富山の砺波(となみ)農協が何千個を愛を持って協力して下さいました。時間と労力はかかりましたが多種多様な花が咲き乱れ、美しい物を美しく見れる。心と目が徐々に育ち、落ち着きが戻って来ました。

新幹線工事をきっかけに、沢山の植物や昆虫の出会いの中で、自然の偉大さ生きる力をまざまざと見せつけられました。自然こそ私達の生きたダイナミックな感性を育て、生きる力を生み出す原動力であることを知らされました。それを無にしないよう価値ある生き方を模索していくべきであります。

大崎市(古川)東京間を通勤することも夢ではなくなり。平成19年、市の活性化また市の宝アピールをするため、市長から宝大使として委嘱されました。

『楽しく創造しよう大崎市』をモットーに自然の豊かな所(米の町大崎耕土)には文化が宿り、人の心を癒し、創造をかきたてる豊かな町をアピールし、移住者や観光客などを紹介してまいりました。

だが併し地元の人々の「なにもないべちゃ」の言葉に意欲と懸念を覚えるようになりました。大崎に住んでいる人たちが芸術文化を大切に、楽しく豊かに生き生かしていてこそ人の心を癒し、創造をかきたてます。大崎には広大な豊かな自然と耕地(土)があります。

先日、田尻公社の情熱的な堀江社長の案内で加護坊山から大崎耕土を眺望しました。大崎の宝は耕土(地)だ!!

これが我々を育んだ自然であり、叡智・知恵である大崎だと改めて確信しました。

古川駅に下車し、魚屋・酒屋・電気店・美術館等での町は何がありませんかと問われ、即座に「日本一おいしい米」です、と返答できたら、共同体の充実と、人と人との融和が生まれ、活力が湧いて来ます。美味しいものを作り、美味しいものを食べると、人々は豊かになり微笑みます。微笑む所には多くの人が集まり、食欲も物欲も増し、生活意欲も活発になり幸せを引き寄せます。これが大崎です。その象徴として日本一おいしい米のモニュメント「写真」を設置します。(铸造金箔仕上げ・高さ4m 80cm・2t)



15年前、健康で豊かな美しい体躯の象徴として米のモニュメントを古川駅前設置計画があり、模型作品を制作、ところが途中あやふやの状態を中断してしまふ。「なにもないべちゃ」の言葉に触発され、コンセプト(日本一おいしい米の町、微笑む豊かな町)を大切に米作り・物作り、生き方作り、他にないもの作りに専念する。互いに価値観を高める目的で復活しました。

モニュメント制作費は、多くの人々の善意(寄附)で行います。大

崎は実りある稲穂の大地。耕せば耕すほど豊かな大地となり、金の大地と変貌し、金の宝の山は人々の生活を豊かにし、市全体を潤す。コンセプト 金色の稲穂をイメージし、米と米とのつながりが響き合い、健康で豊かな美しい体躯を作り出す。

モニュメント実行委員(古川土地早坂社長)から連絡差し上げますが、故郷活性化のためご協力をお願い申し上げます。

『江戸・東京を

楽しむ会2010』ご案内

一両国界隈と屋形船による周遊

会員の皆様、昨年の鳴瀬川水系の「ふるさと探訪ツアー2009」は、総勢26名の参加者を得て、「雪雲」44号に感想文を掲載しましたとおり好評でした。

その折頂きましたアンケートを以下にまとめました。

ふるさと探訪ツアー印象は、葉山登山で、山頂から大崎平野を一望に見渡せたのは感無量で、「青春よ再び」としんどい急登ながら達成感に満たされた」と一番でした。

また品井沼干拓記念館(わらじ村長・鎌田三之助)にて、明治人の気骨に感動し、大崎市の広さ等を実感した」とありました。

宿泊施設(加美町第三セクター経営の葉山「林泉館温泉」)は、概ね部屋が清潔で温泉泉質も良く寛げたあたり、ツアー料金も安く、十分に楽しめたようです。

これはコース案内・小冊子の準備もさることながら、バス、宴席での大崎市観光交流課松ヶ根典雄課長(S51年卒)の名ガイド役に

負うところ大と改めて皆様書き添えておられます。

こんな背景を元にして継続して探訪ツアーを続けるのが良いとのこと、次回探訪希望は、①北上川水系の登米近郊・石巻地域探訪と、②東京都内1日コースと大別されました。

検討の結果、従来の3同窓会共同企画で今年度の探訪ツアーは左記の提案をすることにいたします。『江戸・東京を楽しむ会2010』として、

「両国界隈と屋形船による周遊」と隅田川の夜景も楽しむ。
・日 時：平成22年10月23日(土)
・コース：12時30分JR総武線両国駅西口改札口集合・出発↓相撲博物館↓旧安田庭園↓震災慰霊堂↓江戸東京博物館↓回向院↓15分柳橋(浅草橋)の船宿「田中屋」着、15時30分屋形船乗船↓隅田川↓東京スカイツリー↓東京港など巡り(景観・夜景を楽しむ)↓18時頃下船・解散

*屋形船は貸切。酒は飲み放題で船膳付き(名物のてんぷら、刺身他)(トイレ付き)、田中屋はJR浅草駅から2、3分(台東区柳橋)35、
TEL:0338516318

・募集人数：35名+a
・会 費：12,000円
(屋形船10,000円、入場料・写真送付代他2,000円)

・その他：屋形船だけ参加の場合、15時30分乗船場に集合。同伴を歓迎します。

・お問い合わせ先
在京古高同窓会事務局 佐々木恭次
Tel/Fax:0424941598
e-mail:skyoji@com.home.ne.jp

・お問い合わせ先
在京古高同窓会事務局 佐々木恭次
Tel/Fax:0424941598
e-mail:skyoji@com.home.ne.jp

平成21年度会費納入状況一覧(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

・同窓会活動の財源としての会費を、皆さまにご協力いただきありがとうございました。
・平成21年度の年会費を納入された方々のご芳名を記して、お礼に替えさせていただきます。

Table with columns for graduation year (卒年), surname (氏), and name (名). It lists members from 昭7 to 昭62, including names like 杉下 刃兵衛, 伊藤 守治, 岩城 有信, etc.

